

●階段・廊下

82. 階段の上下時に、転落防止用の欄を取りつけていますか。

83. 階段を降り降りする時は、大人が下側を支え、手をつないでいますか。

84. 滑りやすい階段には、滑り止めをつけていますか。

85. 階段の照明は、明るくしてありますか。

86. ドアを片側に開けるときは、子どもに近づかないで注意していますか。

87. テーブルや家具に落ちる、角の鋭い部分にはガードをしていますか。

88. 赤ちゃんを抱いている時は、足元の段差に注意していますか。

89. 廊下は滑りにくく、びつばつ危険なものがないようにしていますか。

90. 階段の上下時に、転落防止用の欄を取りつけていますか。

91. 階段を降り降りする時は、大人が下側を支え、手をつないでいますか。

92. 滑りやすい階段には、滑り止めをつけていますか。

93. 階段の照明は、明るくしてありますか。

94. ドアを片側に開けるときは、子どもに近づかないで注意していますか。

95. テーブルや家具に落ちる、角の鋭い部分にはガードをしていますか。

96. 赤ちゃんを抱いている時は、足元の段差に注意していますか。

97. 廊下は滑りにくく、びつばつ危険なものがないようにしていますか。

14

●ベランダ・窓

90. ベランダでは、踏み台となるような物を片づけていますか。

91. 欄の高さは、1m10cm以上ありますか。

92. 欄の間に、足元がけで取れない異物がありませんか。

93. ベッドやソファ、椅子やテーブルなど、子どもがはい上がるものは、欄の間に置かないようにしていますか。

94. 欄の間に隙がある際には、防止の網がありますか。

95. 子どもが一人で、自由にベランダに出入りできないようにしていますか。

96. 欄間の距離がある、縁側の戸は閉めていますか。

97. ベランダには、踏み台となるような物を片づけていますか。

98. 欄の高さは、1m10cm以上ありますか。

99. 欄の間に、足元がけで取れない異物がありませんか。

100. ベッドやソファ、椅子やテーブルなど、子どもがはい上がるものは、欄の間に置かないようにしていますか。

101. 欄の間に隙がある際には、防止の網がありますか。

102. 子どもが一人で、自由にベランダに出入りできないようにしていますか。

103. 欄間の距離がある、縁側の戸は閉めていますか。

15

●ドア

97. ドアを開け閉めする時は、子どもの手を預かないように注意していますか。

98. ドアが、直で閉鎖されないようになっていますか。

99. 角のある家具には、赤ちゃんが鼻血に行かないようにしていますか。

100. 玄関のじゅうたんやマットは、滑らないようにしていますか。

101. ドアを開け閉めする時は、子どもの手を預かないように注意していますか。

102. ドアが、直で閉鎖されないようになっていますか。

103. 角のある家具には、赤ちゃんが鼻血に行かないようにしていますか。

104. 玄関のじゅうたんやマットは、滑らないようにしていますか。

16

●子どもの発達と事故例

発達段階	2歳頃	3歳頃	4歳頃	5歳頃	6歳頃	7歳頃	8歳頃	9歳頃	10歳頃	11歳頃	12歳頃	13歳頃	14歳頃	15歳頃	16歳頃
歩行能力	歩行開始	歩行開始	歩行開始	歩行開始	歩行開始	歩行開始	歩行開始	歩行開始	歩行開始	歩行開始	歩行開始	歩行開始	歩行開始	歩行開始	歩行開始
走り能力															
階段昇降															
ドア開閉															
窓開閉															
ベランダ出入															
家具の移動															
危険物の認識															

図6 応急手当

**もしも…のときにも
慌てないで!**

イザという時に役立つ

子どもの
応急手当

私の家の緊急電話番号

- 救急・火災…… **119番**
- 警 察…… **110番**

救急病院	
小児科	外科
産科	眼科
皮膚科	耳鼻科
薬 局	
お父さんの勤務先	
お母さんの勤務先	
保育園・幼稚園	
タクシー	

※通話料 包月 必着用(パニック) かつ 救急 必着用(パニック) はごみ 水 洗 せ ン セ ン ター シ ョ ン 目 録 取 り 下 せ ください

● 応急手当がわからない場合は、生お版へ連絡。または
中継110番(有料)へ相談 つくば: 0990-52-8899
大 阪: 0990-50-2498

※市価格は部数により異なりますので、
発行所(株)まほろばまでお問合せください。

警署: 国立保健医療科学院 生涯保障部 田中哲郎
発行所: 株式会社 まほろば

異物を飲み込んだとき

何をどれ位飲んだか確認しましょう。原則は吐かせる。

飲み込んだ物	応急手当
タバコ	喉の奥を刺激して吐かせる
薬	水や牛乳を飲ませて吐かせる → 病院へ(小児科)
衣類用防虫剤	牛乳はダメで水を飲ませ吐かせる
強い酸やアルカリ性の洗剤・漂白剤	牛乳・卵白を飲ませるが吐かせない → 至急病院へ
灯油や揮発性の物質	吐かせない → 至急病院へ

少量の誤飲のとき

普通と様子が違うなら、病院に連絡しましょう。



少量の誤飲(1ml未満、1cm以下)ではほとんど無害ですが、念のため注意深く様子をみましよう。
普通と様子が違うのなら、医師に連絡をしましょう。

食用油、酒、冷蔵庫用洗剤、漂白剤、マッチの先端、ろうそく、インク、クレヨン、鉛の具、鉛筆、消しゴム、墨汁、粘土、燐、石鹼、おしろい、口紅、クリーム、化粧水、香水、ベビーオイル、乳液、ベビーパウダー、歯磨き粉、シャンプー、ヘアートニック、シリカゲル、薬箱、蚊取りマット、花火、乾電池、体温計の水銀

● 応急手当がわからない場合は、生お版へ連絡。または
中継110番(有料)へ相談 つくば: 0990-52-8899
大 阪: 0990-50-2498

※市価格は部数により異なりますので、
発行所(株)まほろばまでお問合せください。

けがで出血したとき

症 状	応 急 手 当
出血	ガーゼや清潔な布で、傷口を閉じるように押えて止血
出血がひどいとき	圧迫して止血と同時に手足なら心臓に近い部分をしばる → 至急病院へ
ガラスやくずがささった	深い場合は無理に抜かない → 病院へ(外科)
トゲがささった	トゲ抜きや消毒した針でほじくりながら取る
すり傷	泥や砂は良く洗い流し消毒
切り傷	

鼻血が出たとき

子どもを抱っこするが座らせ顔を少し前に曲げるような姿勢で鼻をつまむように押さえる。または、綿球などを鼻に詰めるのもよいでしょう。

鼻血の時はあおむけに寝かせると血がノドに流れ込み吐くことがあるので、座らせて鼻を詰めるのがよいでしょう。

溺れたとき

症 状	応 急 手 当
意識がない	気道確保 → 心肺蘇生 をしながら → 至急病院へ
呼吸していない	人工呼吸
脈がない	心臓マッサージ
意識がある	あたたかくして → 病院へ(小児科)

● 水にもくった程度なら様子をみる

動物などに噛まれたとき

子どもは動物に対しても警戒心がほとんどないので噛まれることがあります。現在、日本では狂犬病はありませんが、細菌感染の危険があります。

- 犬に深く噛まれた
- 猫にひどく引っ掻かれた場合

(応急手当) よく洗い消毒します。(細菌感染などの危険があるため)



→ 病院へ(外科)



● 深い場合は、傷を石鹼などでよく洗い、消毒し、きれいなガーゼで覆ってください。

やけどをしたとき

すぐに水道水やシャワーで直接、または服の上から冷やすことが大切です。

症 状	応 急 手 当
片足、片腕以上の広範囲	冷やす → 至急病院へ
手のひら以上の範囲	冷やす → 病院へ(外科)(皮フ科)
500円玉より大きい水ぶくれ	つぶさないようにする
赤くなった程度	流水で十分冷やしガーゼでおおう



500円玉より大きい水ぶくれの場合は、一服病院へ

頭を打ったとき

症 状	応 急 手 当
意識がない	気道確保 → 至急病院へ
出血がひどい	傷口をガーゼ(清潔な布)で押さえて止血 → 至急病院へ
くり返し嘔吐がある	吐いたものが気管やのどにつまらないよう横向きに寝かせる
顔色が悪くいつまでも元気がない	→ 病院へ(小児科)(脳外科)
意識はある	元気なときでも24時間安静にして様子をみる
こぶができた	安静にして冷たいタオルで冷やす



まず、助ける
と同時に救急車の要請を。

気道確保
人工呼吸
心マッサージ

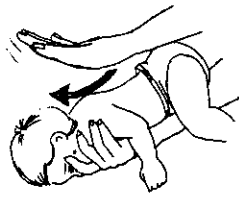
溺れたり、気道、すなわち空気の通り道に物がつまった際には一刻も早い処置が必要です。普段から心肺蘇生法や気道異物を取る方法を知っておきましょう。

人間の脳細胞は数分間血液が流れずに酸素が不足すると、その後どんなに病院で治療を行っても回復することはありません。ですから、事故が起きた場所での応急手当が大切です。救急車が来るにはどんなに早くても5〜8分かかってしまいます。

こんなとき、命を守るための気道確保、人工呼吸、心臓マッサージなどの心肺蘇生法を救急車が来るまで行ってください。心肺蘇生法の原則は普通に行っている呼吸や心臓の働きを前

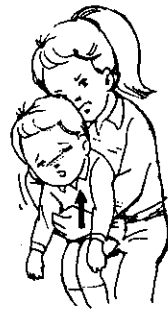
のどに物がつまったとき

気道異物



▲左の腕に子どもをうつぶせで頭を45度位下向きにし、背中の中肋骨の間を異物が出るように強く4〜5回叩きます。
(背部叩打法)

●少し大きな子どもの場合...



◀両腕を子どもの体に回し、こぶしをおへその上の胸のあたりに充て、上の方へ素早く数回押し上げます。
(ハイムリッチ法)



意識がないとき

気道確保



大きな事故や重病になると意識がなくなります。意識がない時は倒れているのと異なり痛みや反応がなくなり、呼吸が止まると同時に脈を判断などして反応があるかを確かめましょう。意識がないと人間の体は全身の筋肉がゆるんでしまいます。同時に口の中の筋肉もゆるんで、舌がノドの奥の方に落ち込み、気道(空気の通り道)を塞ぐことが多くみられます。そのような時にはあおむけにして首の先を少し持ち上げると同時に頭を後ろに倒らすと空気の通り道が開きます。



▲舌がのどの奥の方に落ち込み、気道をふさいでいる。



▲あごに手をかけ、上に持ち上げるようにすると同時に、頭を後ろの方へ倒せると、気道が開通します。

呼吸していないとき

人工呼吸

子どもに顔を近づけて、胸の動きや呼吸音・空気の流れを確認し、呼吸が止まっていたら人工呼吸をしましょう。



▲乳児の場合
口と鼻を一緒に覆い、強くも過ぎないように息を吹き込みましょう
(1分間に20回(3秒に1回)程度の早さで胸が上がるように行う)
▲幼児の場合
子どもの鼻をつまみ、口と口を付けて息を吹き込みましょう
(1分間に15回(4秒に1回)程度の早さで行う)

心臓が動いていないとき

心臓マッサージ

心臓が動いているかどうかは、自分で呼吸しているか、喉がみられるか、体を動かすかを確認し、これらがなければすぐに心臓マッサージを開始しましょう。

乳児の場合



幼児の場合

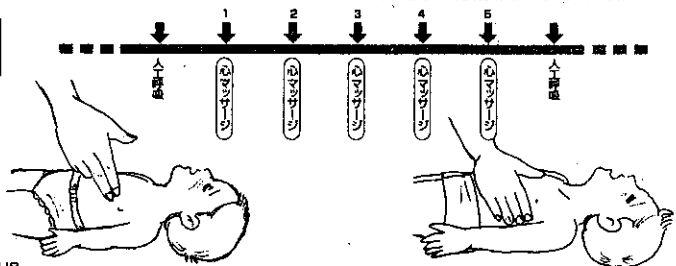


脈がないとき

人工呼吸と心臓マッサージ

●人工呼吸と心臓マッサージの関係

人工呼吸1回に心臓マッサージ5回の割合で続けましょう。人工呼吸や心臓マッサージは普段の呼吸や心臓の働きを補ってあげるものです。我々成人の呼吸は1分間に13〜15回、心拍数は1分間に70〜80回位です。子どもは新陳代謝が大人に比べ活発ですからそれよりも呼吸数、心拍数が多くなっています。このことを知っておくと、回数などを忘れても容易に思い出せます。



▲乳児
左右の乳頭を結んだ線の中点より指1本分(約1〜1.5cm)下を指2〜3本で直上より2cm位沈み強さで押す。(1分間に100回より少し多め)

▲幼児
胸骨の下端より指2本分(2〜3cm)上を、片手の掌の付け根の部分で3cm位沈み強さで押す。(1分間に100回位)

目にゴミが入ったとき

目をこすらないことが大切です

症状	応急手当
化学薬品などが入った	大量の水で十分洗い流す → 病院へ(眼科)
ゴミが入った	目をさしたり水にぬらした清潔なガーゼで取り除く → 病院へ(整形外科)
砂が入った	水道水ややかんの水で洗い流す

虫に刺されたとき

症状	応急手当
呼吸が苦しい	気道確保 → 至急病院へ
スズメバチ・クマンバチなど大きいハチに刺された	毒を出す針が残っていたらトゲめきで取る → 至急病院へ
小さいハチに刺された	毒を出す針が残っていたらトゲめきで取る → よく水で洗い、虫刺され用の軟膏を塗っておく
毛虫に刺された	毛をぬく水を強く出して洗い流す

骨折・捻挫・脱臼したとき

子どもの腕はちょっと引っ張っただけでも脱臼したり、転んで骨折や捻挫をすることがあります。痛み部位を動かさないように安静にすることが大切です。

●軽んで欲しく痛む

(応急手当)
骨折や脱臼の可能性があれば氷や冷たいタオルなどで患部を冷やして腫れを止めておきましょう。痛みがひどい場合は病院へ(整形外科) → 痛みや腫れがひどいなどの症状があれば一度病院にみてもらいましょう。

<家庭で>



痛みや腫れがひどいなどの症状があれば一度病院にみてもらいましょう。

郵送用事故防止パンフレットの作成と保護者の考え方

主任研究者 田中 哲郎 国立保健医療科学院生涯保健部
研究協力者 石井 博子 国立保健医療科学院生涯保健部
市川光太郎 北九州市立八幡病院小児科

研究要旨：健診機会を利用して子どもの事故防止を図ることは、健診が発達の節目に行われており、発達と事故の関係が密接な関連を持つことより有効な方法とされる。しかし、必ずしも同じ施設で頻回に健診を受けないとも考えられることより、健診と健診の間に郵送用パンフレットにより啓発することが考えられることより、3カ月、9カ月、13カ月頃に必要とされる事故防止について啓発する事例パンフレットを作成した。また、このパンフレットに対する保護者の考え方について調査を行った。

その結果、パンフレットの内容について役立つ内容であったとの回答が93.7%にみられた。また、保護者に同パンフレットを配布すべきとする者が77.8%にみられた。健診で事故防止指導を行った保護者は、事故防止について知識があると答えた者が病気などより多くみられており、事故防止の啓発は効果があると考えられた。

1. パンフレット郵送による事故防止とは

健診の機会を利用しての事故防止指導は最も有用な方法の一つであると考えられるが、開業医での健診は1カ月、3～4カ月、6カ月、9カ月、1歳、1歳6カ月、3歳児健診などの健診が全て実施しているとは限らない。多くの自治体では6カ月健診および1歳6カ月児健診が開業医に委託され、保護者は開業医の所で無料で健診を受けることが多い。

しかし、この6カ月から1歳6カ月の間は子どもの事故が最も多い時期とされ、6カ月児健診において、この1年間に多くみられる事故全てについて指導することは容易ではない。

以上のことより、この間に必要と思われる事故防止のための情報を郵送にて発信することが考えられる。3カ月頃、また1歳少し前、1歳少し後に、その時期に多い事故について、心配りを必要と考えられる項目を簡単にまとめた事例を中心とした指導パンフレットを郵送し事故防止指導をすることが考えられる。

このことより、平成9年に全国の医療施設において実施された14,512例の事例を分析し、対象とする時期に多い事故を中心に、事例より5項目を選びイラスト入りのパンフレットを作成した。

この方法は郵送料を必要とするが、かかりつけ医が子どもの安全や健康について気遣いしてくれるということは、医療機関の評判にもよ

い影響があると考えられる。

2. 郵送用パンフレットに対する保護者の考え方

(1) 方法

郵送用パンフレットについては、北九州地域において実際に事故防止を計るために使用したので、それに対する保護者の考え方について調査を実施した。

方法は6カ月健診時に安全チェックリストへの記入を依頼し、その際に事故防止活動を行うことに同意した保護者に対して、生後10～11カ月頃に事故防止のパンフレットを郵送した。その際に調査用紙を同封し、記入を依頼し郵送にて回収を行った。

調査は平成14年11月から12月に実施した。

(2) 結果

① 回答数

平成15年1月10日現在、調査用紙の回答数は63通である。その属性は母親が61名(96.8%)、父親が2名(3.2%)、不明が1名(1.6%)であった。

② パンフレットを読んだ

パンフレットを読んだ人は回答者63名中62名(98.4%)、不明が1名(1.6%)であった。

パンフレットの内容について、事故防止に役立つ内容の有無については、役立つ内容があったと答えた者が59名(93.7%)、なかったが3名(4.8%)、不明が1名であった。

役立った内容については、転倒事故が38名(不明を除いた58名に対する割合65.5%)、誤飲事故37名(63.8%)、はさむ事故が35名(60.3%)、熱傷が30名(51.7%)、転落事故が21名(36.2%)、溺れる事故が9名(15.5%)であった。

④ 事故防止の情報について

このような事故防止の情報を求めているかについては、求めていると答えた者が41名(65.1%)、あまり求めているいなかった者が1名(1.6%)、どちらとも言えないと答えた者が19名(30.2%)、不明が2名(3.2%)であった。

⑤ 全国の保護者への配布

全国の保護者に対して、このような事故防止のパンフレットを配布した方がよいかの考えについては、配布した方がよいと考える者が49名(77.8%)、配布する必要がないとしたものは見られず、どちらともいえないと答えた者が14名(22.2%)であった。

⑥ 医院、保健所、保育園などでの配布

病院や医院、保健所、保育園などにおいて、このようなパンフレットが簡単に手に入るようになると良いかについての考え方では、そう考える者が61名(96.8%)、どちらともいえないが2名(3.2%)、不要との考え方をする者は見られなかった。

⑦ 事故防止の講習会への参加

近所の保健所や保育園などで事故防止の講習会開催時の参加の有無については、参加したいとの考えをもつ者が39名(61.9%)、参加しないとの考えをもつ者が7名(11.1%)、どちらともいえないと答えたも

のが17名(27.0%)であった。

⑧ ヒヤリとする事故経験

最近、ヒヤリとする事故経験の有無については、そのような経験があった者が45名(71.4%)、そのような経験がなかった者が17名(27.0%)、不明が1名(1.6%)であった。

⑨ 保護者の事故防止、応急手当等の知識について

事故防止：事故防止の知識について、自信がおおいにある者が2名(3.2%)、多少ある者が20名(31.7%)、普通が30名(47.6%)、あまりない者が11名(17.5%)であった。応急手当：応急手当の知識について、自信がおおいにある者が1名(1.6%)、多少ある者が10名(15.7%)、普通が20名(31.7%)、あまりない者が28名(44.4%)、全くない者が4名(6.3%)であった。

心肺蘇生法：心肺蘇生法の知識について、自信がおおいにある者はいなく、多少ある者が11名(17.5%)、普通が14名(22.2%)、あまりない者が24名(38.1%)、全くない者が14名(22.2%)であった。

病気についての知識：病気についての知識について、自信がおおいにある者が1名(1.6%)、多少ある者が11名(17.5%)、普通が25名(39.7%)、あまりない者が22名(34.9%)、全くない者が4名(6.3%)であった。

おわりに

健診と健診の期間があき事故防止について保護者を啓発できない際に、郵送により啓発する方法を考案した。同方法を北九州地区で実施し、保護者の考え方について調査を実施した結果、多くの保護者(90%以上)が役立つ内容であったと回答しており、有効な方法の一つと考えられた。

郵送用パンフレットに対する保護者の考え方

1. 事故防止に役立った内容の有無 (N=70)

役立つ内容	有り	65 (92.9 %)
	無し	4 (5.7 %)
不明		1 (1.4 %)

2. 役立った主な内容 (N=64)

1. 転倒事故	42 (65.6 %)
2. 誤飲事故	39 (60.9 %)
3. はさむ事故	37 (57.8 %)
4. 熱傷	32 (50.0 %)
5. 転落事故	23 (35.9 %)
6. 溺水事故	10 (15.6 %)

3. このような事故防止の情報を求めているか (N=70)

求めている	44 (62.9 %)
求めていなかった	2 (2.9 %)
どちらともいえない	22 (31.4 %)
不明	2 (2.9 %)

4. 全国的に配布の必要性の有無 (N=70)

必要あり	55 (78.6 %)
必要なし	0 (0.0 %)
どちらともいえない	15 (21.4 %)

5. 事故防止の講習会参加の希望 (N=70)

参加の希望あり	44 (62.9 %)
参加の希望なし	7 (10.0 %)
どちらともいえない	19 (27.1 %)

6. 医療機関・保健所・保育園での配布の希望 (N=70)

配布の希望あり	67 (95.7 %)
配布の希望なし	0 (0.0 %)
どちらともいえない	3 (4.3 %)

7. 最近事故についてヒヤリとした経験の有無 (N=70)

あり	50 (71.4 %)
なし	19 (27.1 %)
不明	1 (1.4 %)

8. 記入者自身の知識について (N=70)

	大いに ある	多少あ る	普通	余りな い	全くな い	総数	スコア *
事故	2	24	32	12	0	70	3.23
	(2.9)	(34.3)	(45.7)	(17.1)	(0.0)	(100.0)	
応急手当	1	10	23	32	4	70	2.60
	(1.4)	(14.3)	(32.9)	(45.7)	(5.7)	(100.0)	
心肺蘇生法	0	11	16	29	14	70	2.34
	(0.0)	(15.7)	(22.9)	(41.4)	(20.0)	(100.0)	
病気	1	11	28	26	4	70	2.70
	(1.4)	(15.7)	(40.0)	(37.1)	(5.7)	(100.0)	

*大いにある5、多少ある4、
普通3、余りない2、全くない1
とした際にスコア

子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。
この時期に多い事故防止のポイントをまとめてみました。
ご参考になれば幸いです。



●健診受診医療機関名

著作：国立保健医療科学院生涯保健部 田中哲郎

ちょっとした気配りで防げます。
事故防止のポイントをまとめてみました。
ご参考になれば幸いです。

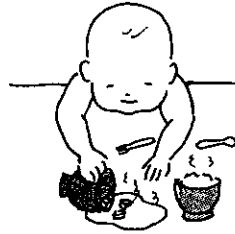


●健診受診医療機関名

著作：国立保健医療科学院生涯保健部 田中哲郎

やけど

- *ポットを抱きかかえて倒し、お湯がこぼれてやけどをしてしまった。(8か月)
- *炊飯器の噴出し口に手をかざして蒸気を浴びてしまった。(9か月)
- *一人でつかまり立ちをしようとして、ストーブに手をついてしまった。(8か月)
- *テーブルの上のお椀に入った味噌汁をこぼして、手にやけどをしてしまった。(9か月)



床に置いてあるポットにつかまり立ちをしようとして、ひっくり返しお湯をこぼしてしまったり、炊飯器の蒸気の噴出し口に手を近付けたり、ヒーターの噴出し口に指を入れてしまうとやけどをしてしまいます。

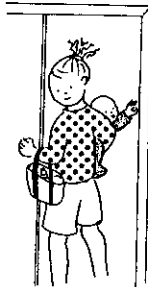
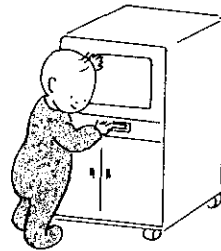
赤ちゃんは、熱いものでも平気で触ってしまうので、食事中でも手の届く所に熱い物を置かないようにしましょう。



- *ポットや炊飯器は手の届かない所に置きましょう。
- *熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置きましょう。
- *ストーブやヒーターは必ず安全柵で囲いましょう。

はさむ事故

- *ビデオデッキの戸の中に指を入れ、はさまれてしまった。(9か月)
- *赤ちゃんを抱いてエレベーターに乗っていて、ドアが開くとき赤ちゃんの手がはさみこまれてしまった。(11か月)



赤ちゃんの小さな指はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまいます。ドアをいたずらしているのに気づかずドアを閉めてしまったり、開けておいたドアが風で急に閉まって指がはさまれてしまう事故があります。



- *ドアの開閉をするときは、赤ちゃんの手の位置を確認しましょう。
- *ドアを開けておくときは、ドアストッパーなどで固定をしましょう。
- *すき間には指を入れて遊ばないようにガードをしておきましょう。

子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。
この時期に多い事故防止のポイントをまとめてみました。
ご参考になれば幸いです。



●健診受診医療機関名

誤飲

*ハイハイをしてベランダへ出て行き、室外機の上に置いてあった灰皿の中のタバコを誤飲してしまった。(11か月)

*トイレに置いてあった灰皿のタバコの吸殻を食べてしまった。(11か月)

*おもちゃのゲームをいじっていて、知らないうちにボタン電池を誤飲していた。(9か月)



手の届くところの物がつかめるようになると、小物はつまんで口に入れてしまうので、口の中へ入る物には注意が必要です。

大人が口にするタバコに興味津々で、この時期からタバコの誤飲事故が多くなります。タバコは2センチ以上飲み込むと命にかかわることがあります。



*タバコや灰皿はいつも手の届かないところに置きましょう。

*部屋の中の整理整頓をしましょう。

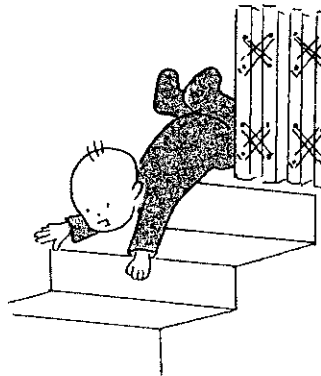
転落

*2階の階段の柵を閉め忘れていて、目を離したすきに落ちてしまった。(11か月)

*朝、母親が台所の仕事をしている間に、階段にハイハイをして行き、のぼってしまい転落。(9か月)

*歩行器に乗ったまま2階から転落してしまった。(10か月)

*玄関にお座りをさせておき、自動車に荷物を取りに行っている間に玄関より転落。(11か月)



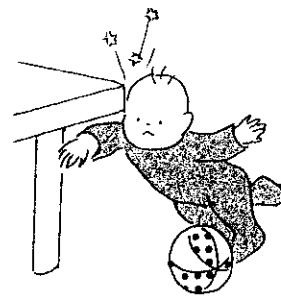
ハイハイが始まると階段や段差があるところでは目が離せません。赤ちゃんからちょっと目を離したすきに転落事故はおこっています。階段や段差があるところには柵をつけることで、転落事故の大部分は防げます。

階段の柵は1階部分と2階部分の両方に取り付け、閉め忘れないようにしましょう。

転倒

*ヨチヨチとつかまり立ちをしていて、よろけて机の角におでこをぶつけてしまった。(11か月)

*ボールペンを口にくわえたまま転倒し、ボールペンが口の中に刺さってしまった。(11か月)



つかまり立ちや歩き始める赤ちゃんに転倒はつきもので、おもちゃをくわえて倒れると口の中をけがしてしまったり、目の高さにある家具や柱の角に頭やおでこをぶつけてしまいがちです。お座りをしている時、バランスを崩し、前のめりや後ろに倒れたりするので、近くに敷居や家具があるとぶつかってしまいます。



*角のするどい家具やテーブルの端はカバーをしておきましょう。

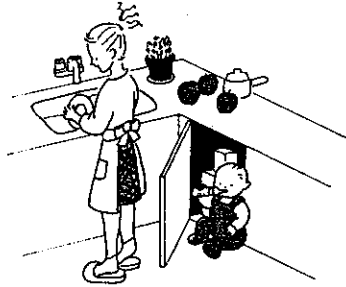
*硬い積み木などのおもちゃに注意しましょう。

*先がとっがていたり、硬い物は口の中に入れてないようにしましょう。

誤飲

*台所でちょっと目を離したすきに、哺乳瓶に入っていた洗剤を飲んでしまった。(1歳6か月)

*洗面所にあったお風呂用洗剤を飲んでしまった。(1歳3か月)



お母さんが使うものに興味津々で、台所・浴室・洗面所・トイレなどに洗剤、化粧品、医薬品を無造作においておくのは禁物です。

電池のふたが開いて知らないうちにボタン電池を飲み込んでしまったり、指輪や硬貨を誤飲してしまうことがあるので、自分の家だけではなく外出先でも注意が必要です。



*タバコや灰皿はいつも手の届かないところに置きましょう。

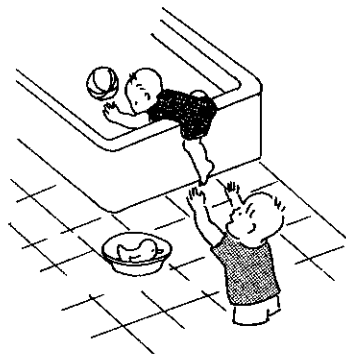
*化粧品や洗剤は手の届かないところに置き、棚の扉は開けられないようにしておきましょう。

*部屋の中の整理整頓をしましょう。

おぼれる

*母親と入浴中、母親がシャンプーで目を離したすきに、浴槽内に立っていたはずがうつぶせに浮かんでいた。(1歳1か月)

*兄や姉と遊んでいるうち一人で浴室に入り込み、浴槽に落ちていた。(1歳5か月)



ひとりでどんどん歩き回るようになると、掃除をしようとして浴室のドアを開けておいたら、知らないうちに入りこみ溺れていたり、入浴しようとして浴槽のふたを開けておいたため転落しておぼれてしまう事故があります。



*入浴後、2歳のお誕生日までは浴槽のお湯は抜いておきましょう。

*簡単に浴室に入れないように、ドアには外鍵をつけましょう。

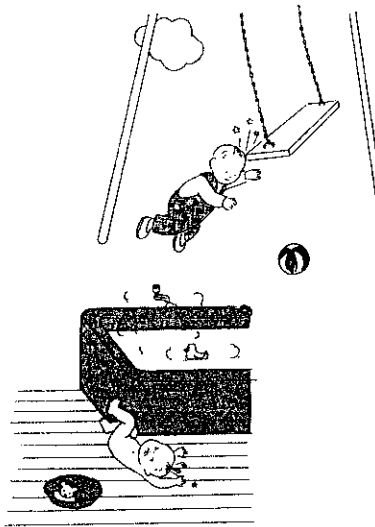
子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。
この時期に多い事故防止のポイントをまとめてみました。
ご参考になれば幸いです。



●健診受診医療機関名

転倒

- *公園で遊んでいてつまずいて転倒し、ブランコの金具で顔を打ってしまった。(1歳4か月)
- *居間のカーペットで滑り、サッシに頭をぶつけてしまった。(1歳5か月)
- *お風呂場で足を滑らせて床で頭を打ってしまった。(1歳3か月)



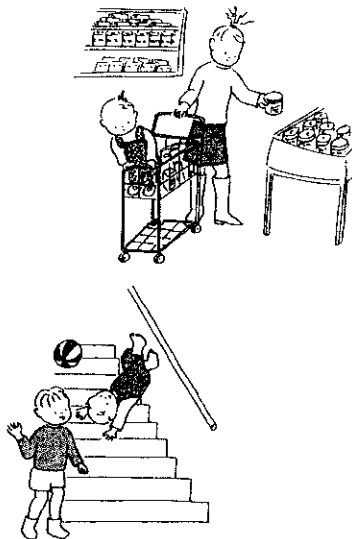
床に出してあるおもちゃや敷居・コードにつまずいたり、フローリングの床で靴下を履いていて走って滑ったり、お風呂の床で滑ったり、子どもはよく転ぶので子どものまわりには気配りが必要です。



- *角のするどい家具やテーブルの端はカバーをしておきましょう。
- *子どものまわりに、つまずきやすい物や段差がないか確認しましょう。

転落

- *ベビーカーから身を乗り出して何かを取ろうとして床に顔から落ちてしまった。(1歳3か月)
- *スーパーに買い物に行き、カートに乗せていたが転落してしまった。(1歳5か月)
- *兄弟で遊んでいるとき、兄の後ろを追って階段を降りようとして、滑って13段転落してしまった。(1歳3か月)



椅子に座っているときはまだまだじつとしてられません。ベビーカーの車輪が段差や溝にはまったり、ぶら下げていた荷物の重みでひっくり返ってしまったり、子どもが急に立ち上がって転落してしまう事故がおきています。

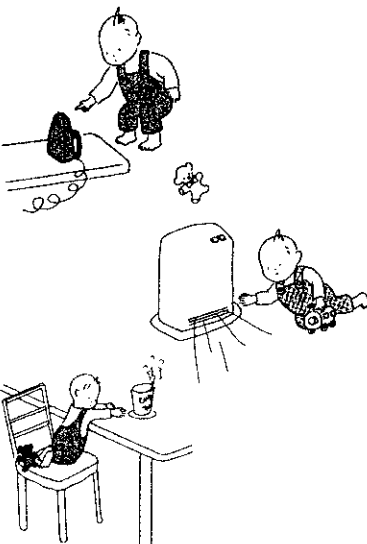
大人の目が離れることがあっても安全なように、転落の危険があるところには柵をつけたりカギをかけておくことで転落事故は防止できます。



- *ベビーカーに乗せるときは必ずベルトを締めましょう。
- *階段の柵は閉め忘れないようにしましょう。

やけど

- *まだ熱いアイロンが畳の上であり、アイロンに手を伸ばして触ってしまった。(1歳3か月)
- *温風ヒーターの噴出し口に手を当ててしまい、やけどをしました。(1歳5か月)
- *カップめんにお湯を入れているときにこぼし、やけどをしました。(1歳4か月)



ちょっと目を離したすきに、ガス台から下ろしたばかりの鍋やヤカン、使い終わったばかりのアイロンを触ったり、テーブルの上の熱い食べ物・飲み物をひっくり返してやけどをしてしまう事故があります。熱いものはすぐに手の届かないところに置くことでやけどは防げます。



- *アイロンはすぐに手の届かない所に置きましょう。
- *熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置きましょう。
- *ストーブやヒーターは安全柵で囲いましょう。

子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究

都道府県別の事故の現状

主任研究者	田中 哲郎	国立保健医療科学院生涯保健部
研究協力者	内山 有子	国立保健医療科学院生涯保健部
	石井 博子	国立保健医療科学院生涯保健部
	亀井美登里	国立保健医療科学院生涯保健部
	梅田 勝	千葉県健康福祉部

研究要旨：厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態統計を用いて都道府県別にみた事故による死亡数と死亡率を計算し47都道府県の順位を明らかにした。また、都道府県別にみて全国で最も低い死亡率、上位4分の1の12位並の死亡率、政令指定都市の平均値並の死亡率、先進国の第1位の死亡率、第5位の死亡率となった場合に救命される人数についても試算を行った。

全年齢階級の事故による死亡率が最も低いのは東京都、次いで埼玉県、神奈川県、死亡率が最も高いのは高知県、次いで香川県、島根県の順でもし、高知県の事故による死亡率が東京都並になれば、5年間で1,300人の命が救命されると試算された。0歳では死亡率が最も低いのは長崎県、次いで岩手県、沖縄県、死亡率が最も高いのは鹿児島県、次いで香川県、愛媛県の順であった。1-4歳では死亡率が最も低いのは富山県、次いで神奈川県、奈良県、死亡率が最も高いのは佐賀県、次いで茨城県、福島県順であった。5-9歳では死亡率が最も低いのは香川県、次いで神奈川県、大阪府、死亡率が最も高いのは高知県、次いで島根県、岡山県の順であった。10-14歳では死亡率が最も低いのは和歌山県、次いで静岡県、石川県、死亡率が最も高いのは香川県、次いで高知県、茨城県の順であった。

また健やか親子21の目標値であるように、事故による死亡率を半減できれば、0-14歳年齢階級で毎年540人が救命できると試算され、平成12年度国民医療費により、0~14歳の損傷および中毒による医療費は、1622億円であり、同年齢の医療費総計1兆6360億円の約10%を占めていることがわかった。

目的

子どもの事故対策の必要性は厚生労働省の「健やか親子21」で取りあげたことから明らかであり、2010年までに全ての市町村での取り組みが目標値にかかげられたが、各都道府県別の子どもの事故による被害がどれほど大きいのか、各都道府県が全国比較においてどの位置にあるか等は知らされていないという現状がある。また、事故の発生頻度、事故の種類等に地域差があることより、地域特性を考慮した事故防止対策を考える必要があると思われる。

そこで、各都道府県別の不慮の事故の死亡数・死亡率・順位および、各都道府県の死亡率が全国で最も低い死亡率、上位4分の1の12位並の死亡率、政令指定都市の平均値並の死亡率、先進国の第1位の死亡率、第5位の死亡率となった場合に救命される人数、経済的損失等について試算を行った。

方法

厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態統計より都道府県別にみた事故による死亡数と死亡率（人口10万対）を計算し、47都道府県の順位を明らかにした。死亡数は都道府県別にみると1年度分だけでは数値が少なく、ばらつきが大きくなることより平成9年から平成13年までの5年度分の合計値を使用した。また、国際比較としてWHOのWorld Health Statistics Annualを使用し、日本を含めた先進15カ国（カナダ、アメリカ、オーストラリア、フランス、ドイツ、ギリシャ、イタリア、オランダ、ノルウェー、スウェーデン、スイス、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド）の不慮の事故による死亡のデータを収集し検討を行った。

結果と考察

I. 都道府県別の死亡数・死亡率・順位

(1) 総数

平成9-13年の5年間の死因総数の全国平均死亡率は750.7(人口10万人対)、13政令指定都市の死因総数の平均死亡率は675.1で、都道府県別で死亡率が最も低いのは埼玉県の575.4、次いで神奈川県590.2、沖縄県591.4、死亡率が最も高いのは高知県1015.1、次いで島根県1011.4、秋田県993.3であった。

不慮の事故による死亡率の全国平均は31.0、13政令都市の平均は23.9で、最も低いのは東京都(20.2)、次いで埼玉県(21.3)、神奈川県(22.5)で、死亡率が最も高いのは高知県(53.2)、次いで香川県(44.9)、島根県(44.2)であった。

不慮の事故の種類別に見てみると、交通事故は全国平均が10.4、13政令都市平均が6.7で、低い県は東京都(5.3)、神奈川県(6.2)、大阪府(7.2)、高い県は香川県(18.8)、佐賀県(15.9)、徳島県(15.4)であった。

転倒・転落は全国平均が4.9、13政令都市平均が4.4で、低い県は神奈川県(3.4)、沖縄県(3.5)、埼玉県(3.7)、高い県は高知県(10.0)、徳島県(7.5)、大分県(7.2)であった。

溺死及び溺水は全国平均が4.6、13政令都市平均が4.3で、低い県は埼玉県(1.8)、栃木県(2.6)、京都府(2.6)、高い県は富山県(9.0)、新潟県(8.8)、福井県(8.3)であった。

窒息は全国平均が6.1、13政令都市平均が4.4で、低い県は東京都(3.7)、神奈川県(3.7)、埼玉県(3.8)、高い県は高知県(12.6)、秋田県(10.4)、島根県(10.3)であった。

火災は全国平均が1.1、13政令都市平均が0.9で、低い県は沖縄県(0.7)、神奈川県(0.8)、兵庫県(0.8)、高い県は青森県(2.3)、高知県(2.2)、香川県(1.8)であった(表1)。

(2) 0歳

平成9-13年の5年間の死因総数の全国平均死亡率は339.7(人口10万人対)、13政令指定都市の死因総数の平均死亡率は321.4で、都道府県別で死亡率が最も低いのは長野県の263.3、次いで静岡県288.3、岩手県288.5で、死亡率が最も高いのは沖縄県475.8、次いで徳島県451.3、高知県437.5であった。

不慮の事故による死亡率の全国平均は20.0、13政令都市の平均は18.2で、最も低いのは長崎県(8.5)、次いで岩手県(9.7)、沖縄県(10.7)、高い県は鹿児島県(40.6)、香川県(36.7)、愛媛県(34.8)であった。

不慮の事故の種類別に見てみると、交通事故は全国平均が1.6、13政令都市平均が1.0で、低い県は青森県、山形県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、愛媛県、高知県、長崎県、大分県でこの5年間に死亡者なし、高い県は鹿児島県(4.9)、長野県(4.7)、秋田県(4.4)であった。

転倒・転落は全国平均が1.0、13政令都市平均が1.3で、低い県は青森県、宮城県、秋田県、山形県、栃木県、新潟県、山梨県、京都府、奈良県、和歌山県、鳥取県、岡山県、山口県、徳島県、長崎県、熊本県、宮崎県で死亡者なし、高い県は鹿児島県(4.9)、石川県(3.5)、島根県(3.1)であった。

溺死及び溺水は全国平均が1.3、13政令都市平均が1.0で、低い県は岩手県、山形県、福島県、石川県、福井県、滋賀県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、徳島県、香川県、佐賀県で死亡者なし、高い県は山梨県(4.8)、青森県(4.6)、愛媛県(4.5)であった。

窒息は全国平均が14.0、13政令都市平均が13.1で、低い県は岩手県(1.6)、秋田県(2.2)、長崎県(4.3)、高い県は香川県(26.5)、大阪府(25.9)、愛媛県(24.2)であった。

火災は全国平均が0.5、13政令都市平均が0.6で、低い県は青森県、岩手県、秋田県、福井県、茨城県、群馬県、埼玉県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、三重県、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、長崎県、熊本県、宮崎県で死亡者なし、高い県は北海道(4.7)、鹿児島県(3.7)、沖縄県(2.4)であった(表2)。

(3) 1-4歳

平成9-13年の5年間の死因総数の全国平均死亡率は32.7(人口10万人対)、13政令指定都市の死因総数の平均死亡率は30.0で、都道府県別で死亡率が最も低いのは奈良県の26.4、次いで石川県の27.8、鳥取県の27.9、死亡率が最も高いのは鹿児島県47.0、次いで佐賀県43.4、福島県43.3であった。

不慮の事故による死亡率の全国平均は7.8、13政令都市の平均は5.5で、最も低いのは富山県(4.0)、次いで神奈川県(4.0)、奈良県(4.1)、高い県は佐賀県(14.3)、茨城県(13.0)、福島県(12.6)であった。

不慮の事故の種類別に見てみると、交通事故は全国平均が2.7、13政令都市平均が1.8で、低い県は沖縄県(0.6)、鳥取県(0.9)、富山県(1.0)、高い県は島根県(6.8)、佐賀県(5.7)、

福島県 (5.3) であった。

転倒・転落は全国平均が 0.7、13 政令都市平均が 0.9 で、低い県は宮城県、秋田県、山形県、福井県、山梨県で死亡者なし、高い県は和歌山県 (1.5)、静岡県 (1.4)、沖縄県 (1.2) であった。

溺死及び溺水は全国平均が 2.1、13 政令都市平均が 1.0 で、低い県は沖縄県 (0.6)、東京都 (0.6)、富山県 (1.0)、高い県は宮崎県 (4.8)、香川県 (4.8)、鹿児島県 (4.6) であった。

窒息は全国平均が 1.1、13 政令都市平均が 0.8 で、低い県は島根県で死亡者なし、沖縄県 (0.3)、青森県 (0.4)、高い県は山梨県 (2.9)、徳島県 (2.8)、鳥取県 (2.7) であった。

火災は全国平均が 0.7、13 政令都市平均が 0.6 で、低い県は岩手県、秋田県、石川県、山梨県、奈良県、和歌山県、鳥取県、山口県、徳島県、宮崎県で死亡者なし、高い県は大分県 (3.2)、佐賀県 (1.7)、岡山県 (1.6) であった (表 3)。

(4) 5-9 歳

平成 9-13 年の 5 年間の死因総数の全国平均死亡率は 13.5 (人口 10 万人対)、13 政令指定都市の死因総数の平均死亡率は 11.8 で、都道府県別で死亡率が最も低いのは香川県の 9.3、次いで大分県の 9.9、千葉県の 10.6、死亡率が最も高いのは高知県 19.1、次いで福井県 17.4、鳥取県 17.0 であった。

不慮の事故による死亡率の全国平均は 4.8、13 政令都市の平均は 3.2 で、最も低いのは香川県 (2.1)、次いで神奈川県 (2.9)、大阪府 (3.3)、死亡率が最も高いのは高知県 (9.8)、次いで島根県 (8.5)、岡山県 (8.1) であった。

不慮の事故の種類別に見てみると、交通事故は全国平均が 2.5、13 政令都市平均が 1.7 で、低い県は香川県 (0.8)、大阪府 (1.3)、和歌山県 (1.5)、高い県は鳥取県 (4.6)、佐賀県 (4.3)、三重県 (4.1) であった。

転倒・転落は全国平均が 0.2、13 政令都市平均が 0.3 で、低い県は秋田県、福島県、茨城県、群馬県、新潟県、富山県、福井県、山梨県、静岡県、三重県、和歌山県、鳥取県、岡山県、香川県、佐賀県で死亡者なし、高い県は高知県 (1.1)、大分県 (0.7)、山形県 (0.7) であった。

溺死及び溺水は全国平均が 1.2、13 政令都市平均が 0.7 で、低い県は香川県で死亡者なし、神奈川県 (0.3)、群馬県 (0.4)、高い県は高知県 (4.4)、山梨県 (3.5)、鳥取県 (2.6) であった。

窒息は全国平均が 0.3、13 政令都市平均が 0.2 で、低い県は青森県、秋田県、山形県、福島県、栃木県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、島根県、山口県、愛媛県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、沖縄県で死亡者なし、高い県は鳥取県 (1.3)、高知県 (1.1)、岡山県 (2.1) であった。

火災は全国平均が 0.4、13 政令都市平均が 0.3 で、低い県は山梨県、三重県、奈良県、鳥取県、島根県、山口県、徳島県、愛媛県、高知県、佐賀県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県で死亡者なし、高い県は岡山県 (1.3)、長崎県 (1.3)、富山県 (1.2) であった (表 4)。

(5) 10-14 歳

平成 9-13 年の 5 年間の死因総数の全国平均死亡率は 12.3 (人口 10 万人対)、13 政令指定都市の死因総数の平均死亡率は 11.7 で、都道府県別で死亡率が最も低いのは滋賀県の 7.9、次いで三重県の 9.0、大分県 9.7、死亡率が最も高いのは高知県 20.9、次いで香川県 17.9、福井県 15.8 であった。

不慮の事故による死亡率の全国平均は 2.8、13 政令都市の平均は 2.3 で、最も低いのは和歌山県 (1.0)、次いで静岡県 (1.5)、石川県 (1.6)、死亡率が最も高いのは香川県 (6.3)、次いで高知県 (5.3)、茨城県 (4.5) であった。

不慮の事故の種類別に見てみると、交通事故は全国平均が 1.4、13 政令都市平均が 1.2 で、低い県は富山県で死亡者なし、和歌山県 (0.3)、山梨県 (0.4)、高い県は香川県 (4.5)、奈良県 (2.6)、山口県 (2.5) であった。

転倒・転落は全国平均が 0.2、13 政令都市平均が 0.2 で、低い県は青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、新潟県、山梨県、長野県、岐阜県、三重県、滋賀県、京都府、和歌山県、鳥取県、島根県、山口県、香川県、愛媛県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県で死亡者なし、高い県は奈良県 (0.8)、富山県 (0.7)、福島県 (0.6) であった。

溺死及び溺水は全国平均が 0.6、13 政令都市平均が 0.4 で、低い県は岩手県、富山県で死亡者なし、埼玉県 (0.2)、高い県は高知県 (1.9)、青森県 (1.7)、茨城県 (1.6) であった。

窒息は全国平均が 0.2、13 政令都市平均が 0.2 で、低い県は青森県、群馬県、石川県、福井県、静岡県、三重県、滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、山口県、徳島県、佐賀県、熊本県、宮崎県、沖縄県で死亡者なし、高い県は香川県 (1.1)、宮城県 (0.8)、富山県 (0.7) であった。

火災は全国平均が 0.2、13 政令都市平均が 0.2 で、低い県は青森県、秋田県、福島県、群馬県、石川県、山梨県、静岡県、京都府、奈良県、島根県、広島県、山口県、高知県、宮崎県、沖縄県で死亡者なし、高い県は佐賀県 (1.1)、大分県 (0.6)、山形県 (0.6) であった (表 5)。

Ⅱ. 不慮の事故による死亡の超過死亡数

(1) 総数

全国で最も高い高知県の死亡率を、全国で最も低い東京都の死亡率まで下げることが出来れば、5 年間で 1,300 人の命が救命されることになり、死亡率が全国 12 位の兵庫県並になれば 870 人、政令指定都市並になれば 1,000 人が救命されると試算された (表 6)。

(2) 0 歳

全国で最も高い鹿児島県の死亡率を、全国で最も低い長崎県の死亡率まで下げることが出来れば、5 年間で 26 人の命が救命されることになり、死亡率が全国 12 位の宮崎県並になれば 18 人、政令指定都市並になれば 31 人、先進 15 カ国で最も低いオーストリアの死亡率まで下げることが出来れば 31 人、先進 15 カ国の中で第 5 位であるドイツ並になれば 26 人が救命されると試算された (表 7)。

(3) 1-4 歳

全国で最も高い佐賀県の死亡率を、全国で最も低い富山県の死亡率まで下げることが出来れば、5 年間で 18 人の命が救命されることになり、死亡率が全国 12 位の高知県並になれば 12 人、政令指定都市並になれば 15 人、先進 15 カ国で最も低いスウェーデンの死亡率まで下げることが出来れば 19 人、先進 15 カ国の中で第 5 位であるオーストリア並になれば 13 人が救命されると試算された (表 8)。

(4) 5-9 歳

全国で最も高い高知県の死亡率を、全国で最も低い香川県の死亡率まで下げることが出来れば、5 年間で 14 人の命が救命されることになり、死亡率が全国 12 位の奈良県並になれば 10 人、政令指定都市並になれば 12 人が救命されると試算された (表 9)。

(5) 10-14 歳

全国で最も高い香川県の死亡率を、全国で最も低い和歌山県の死亡率まで下げることが出来れば、5 年間で 14 人の命が救命されることになり、死亡率が全国 12 位の神奈川県並にな

れば 11 人、政令指定都市並になれば 11 人が救命されると試算された (表 10)。

(6) 事故による超過死亡数の合計

各県が事故対策に取り組み、事故の死亡率を全国のトップ、または 12 位並、あるいは政令指定都市並にした際に救命される人数を超過死亡率として試算すると、0-14 歳では第 1 位並になれば 5 年間で 2,984 人、1 年間では 597 人、上位 4 分の 1 の 12 位並になれば 5 年間で 765 人、1 年間では 153 人、政令指定都市並になれば 5 年間で 1,271 人、1 年間で 254 人、また健やか親子 21 の目標値であるように、事故による死亡率を半減できれば、5 年間で 2,699 人、1 年間で 540 人が救命できると試算された (表 11)。

Ⅲ. 0-14 歳の事故による人的な被害および経済的損失

厚生労働省の発表している平成 12 年度国民医療費によると、0~14 歳の損傷および中毒による医療費は、1622 億円であり、そのうち入院が 376 億円、外来が 1246 億円とされ、同年齢の医療費総計 1 兆 6360 億円の約 10% を占めている。

各都道府県別の事故による死亡数、損傷および中毒による入院患者数、外来患者数を用いて 1 年間の医療費および将来に及ぼす経済的損失を試算した (表 12)。

結語

不慮の事故による死亡数・死亡率を各都道府県別に分けて検討したところ、それぞれの都道府県の特徴が分かった。今後はこれらの数値に基づき、それぞれの地域特性にあった事故防止対策を検討すべきであると推察された。

表1. 都道府県別の死亡数と死亡率および順位(総数)

都道府県	死因総数			不慮の事故			交通事故			転倒・転落			不慮の溺死及び湖水			不慮の窒息			煙・火・火災への曝露		
	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位
全国	4,763,901	750.7		196,870	31.0		65,791	10.4		30,987	4.9		28,989	4.6		38,613	6.1		7,157	1.1	
北海道	214,456	754.7	13	8,655	30.5	10	3,620	12.7	29	1,062	3.7	5	911	3.2	7	1,444	5.1	8	384	1.4	29
青森県	65,393	886.2	33	2,764	37.5	30	927	12.6	28	321	4.4	9	395	5.4	27	582	7.9	33	171	2.5	47
岩手県	63,514	897.0	34	2,687	37.9	31	924	13.0	32	309	4.4	10	355	5.0	23	629	8.9	38	100	1.4	35
宮城県	84,474	714.3	9	3,742	31.6	13	1,250	10.6	13	439	3.7	4	650	5.5	29	798	6.7	22	160	1.4	30
秋田県	59,065	993.3	45	2,499	42.0	39	644	10.8	14	305	5.1	20	486	8.2	44	618	10.4	46	90	1.5	40
山形県	59,203	951.7	41	2,420	38.9	33	707	11.4	18	324	5.2	21	452	7.3	43	562	9.0	39	84	1.4	28
福島県	92,921	873.8	29	3,766	35.4	21	1,246	11.7	20	491	4.6	15	415	3.9	12	870	8.2	36	190	1.8	44
茨城県	113,266	758.7	15	5,418	36.3	26	2,301	15.4	44	728	4.9	17	625	4.2	17	884	5.9	12	217	1.5	38
栃木県	77,449	772.6	17	3,061	30.5	11	1,284	12.8	31	440	4.4	11	258	2.6	2	508	5.1	7	124	1.2	25
群馬県	79,724	787.4	19	3,370	33.3	15	1,214	12.0	22	558	5.5	27	385	3.8	11	578	5.7	10	145	1.4	37
埼玉県	199,619	575.4	1	7,375	21.3	2	2,824	8.1	4	1,276	3.7	3	625	1.8	1	1,325	3.8	3	283	0.8	4
千葉県	193,398	652.7	5	7,562	25.5	6	2,972	10.0	10	1,233	4.2	8	829	2.8	4	1,227	4.1	4	299	1.0	12
東京都	413,429	685.4	7	12,200	20.2	1	3,190	5.3	1	2,506	4.2	7	1,903	3.2	6	2,241	3.7	1	520	0.9	6
神奈川県	250,817	590.9	2	9,544	22.5	3	2,626	6.2	2	1,451	3.4	1	2,341	5.5	30	1,578	3.7	2	322	0.8	2
新潟県	108,916	879.9	31	5,289	42.7	42	1,578	12.7	30	734	5.9	32	1,095	8.8	46	1,167	9.4	43	184	1.5	39
富山県	49,011	874.5	30	2,429	43.3	43	698	12.5	26	321	5.7	31	503	9.0	47	576	10.3	44	69	1.2	24
石川県	47,177	798.9	20	2,130	36.1	25	716	12.1	24	313	5.3	22	330	5.6	31	492	8.3	37	51	0.9	7
福井県	34,494	832.2	24	1,718	41.5	38	591	14.3	38	247	6.0	33	345	8.3	45	294	7.1	24	43	1.0	14
山梨県	36,722	826.9	23	1,587	35.7	24	533	12.0	23	253	5.7	29	223	5.0	24	285	6.4	16	59	1.3	26
長野県	95,357	860.9	28	4,122	37.2	29	1,225	11.1	16	561	5.1	18	688	6.2	37	883	8.0	34	174	1.6	41
岐阜県	81,619	774.5	18	3,871	36.7	27	1,404	13.3	34	573	5.4	24	532	5.0	25	770	7.3	26	123	1.2	22
静岡県	139,511	740.6	11	6,273	33.3	16	2,075	11.0	15	1,014	5.4	23	744	3.9	13	1,523	8.1	35	193	1.0	13
愛知県	225,115	639.2	4	10,429	29.6	9	3,554	10.1	11	1,573	4.5	13	1,450	4.1	16	2,358	6.7	20	386	1.1	16
三重県	75,171	809.4	22	3,813	41.1	37	1,390	15.0	41	529	5.7	28	570	6.1	36	856	9.2	42	106	1.1	20
滋賀県	45,786	681.9	6	2,255	33.6	18	842	12.5	27	260	3.9	6	302	4.5	19	515	7.7	31	74	1.1	18
京都府	100,058	756.8	14	3,654	27.6	7	1,287	9.7	8	606	4.6	14	342	2.6	3	823	6.2	14	127	1.0	10
大阪府	302,258	686.6	8	10,794	24.5	5	3,149	7.2	3	1,959	4.4	12	1,663	3.8	9	2,062	4.7	5	369	0.8	5
兵庫県	206,540	744.2	12	8,775	31.6	12	2,670	9.6	7	1,586	5.7	30	1,368	4.9	22	1,766	6.4	15	220	0.8	3
奈良県	51,690	716.5	10	2,096	29.1	8	704	9.8	9	335	4.6	16	294	4.1	15	390	5.4	9	65	0.9	8
和歌山県	50,514	944.3	40	2,162	40.4	35	711	13.3	33	369	6.9	43	368	6.9	40	403	7.5	30	73	1.4	31
鳥取県	28,865	941.3	39	1,307	42.6	41	412	13.4	35	183	6.0	34	222	7.2	42	280	9.1	41	43	1.4	34
島根県	38,508	1,011.4	46	1,682	44.2	45	526	13.8	37	257	6.7	41	248	6.5	38	392	10.3	45	52	1.4	32
岡山県	83,889	860.0	27	3,963	40.6	36	1,442	14.8	40	613	6.3	37	530	5.4	28	719	7.4	27	174	1.8	43
広島県	115,484	802.3	21	4,953	34.4	19	1,669	11.6	19	866	6.0	35	727	5.1	26	956	6.6	17	162	1.1	19
山口県	74,564	976.0	44	2,928	38.3	32	1,105	14.5	39	468	6.1	36	341	4.5	18	569	7.4	28	70	0.9	9
徳島県	39,348	954.9	42	1,742	42.3	40	636	15.4	45	311	7.5	46	231	5.6	32	291	7.1	23	59	1.4	36
香川県	45,990	899.2	36	2,296	44.9	46	961	18.8	47	351	6.9	42	300	5.9	34	341	6.7	18	92	1.8	45
愛媛県	69,196	926.9	38	3,241	43.4	44	1,124	15.1	42	535	7.2	44	435	5.8	33	676	9.1	40	103	1.4	33
高知県	41,312	1,015.1	47	2,164	53.2	47	620	15.2	43	409	10.0	47	276	6.8	39	512	12.6	47	88	2.2	46
福岡県	191,952	765.4	16	8,367	33.4	17	2,599	10.4	12	1,285	5.1	19	1,782	7.1	41	1,532	6.1	13	276	1.1	17
佐賀県	39,339	897.5	35	1,738	39.7	34	697	15.9	46	277	6.3	38	215	4.9	21	328	7.5	29	48	1.1	15
長崎県	67,157	885.7	32	2,508	33.1	14	711	9.4	6	413	5.4	25	454	6.0	35	507	6.7	19	102	1.3	27
熊本県	79,593	856.1	26	3,305	35.6	23	1,151	12.4	25	590	6.3	39	378	4.1	14	672	7.2	25	93	1.0	11
大分県	55,344	906.4	37	2,123	34.8	20	726	11.9	21	441	7.2	45	232	3.8	10	360	5.9	11	75	1.2	23
宮崎県	49,821	851.6	25	2,078	35.5	22	789	13.5	36	319	5.5	26	219	3.7	8	394	6.7	21	68	1.2	21
鹿児島県	85,660	959.1	43	3,302	37.0	28	990	11.1	17	579	6.5	40	425	4.8	20	701	7.8	32	146	1.6	42
沖縄県	38,982	591.4	3	1,542	23.4	4	555	8.4	5	230	3.5	2	195	3.0	5	327	5.0	6	47	0.7	1
政令指定都府県計	936,318	675.1		33,143	23.9		9,234	6.7		6,138	4.4		5,927	4.3		6,116	4.4		1,277	0.9	
東京	293,660	722.0	10	8,735	21.5	4	2,205	5.4	1	1,812	4.5	6	1,554	3.8	5	1,487	3.7	3	384	0.9	7
札幌	52,244	573.4	4	1,782	19.6	1	690	7.6	10	284	3.1	2	152	1.7	1	293	3.2	1	79	0.9	5
仙台	26,347	522.7	1	1,033	20.5	3	343	6.8	4	146	2.9	1	168	3.3	4	224	4.4	7	38	0.8	3
千葉	23,725	534.9	2	891	20.1	2	314	7.1	6	206	4.6	8	91	2.1	2	147	3.3	2	43	1.0	8
横浜	99,798	582.5	6	3,896	22.7	5	961	5.6	2	620	3.6	4	1,077	6.3	12	636	3.7	4	120	0.7	2
川崎	34,218	547.5	3	1,449	23.2	6	401	6.4	3	196	3.1	3	371	5.9	11	237	3.8	5	58	0.9	6
名古屋	74,558	686.7	8	2,882	26.5	10	814	7.5	9	523	4.8	9	442	4.1	7	642	5.9	10	117	1.1	11
京都	55,786	760.1	11	1,852	25.2	9	592	8.1	11	334	4.6	7	180	2.5	3	435	5.9	11	72	1.0	9
大阪	105,791	814.2	12	3,756	28.9	12	965	7.4	7	777	6.0	12	575	4.4	8	695	5.3	9	133	1.0	10
神戸	53,869	721.4	9	2,057	27.5	11	514	6													

表2.都道府県別の死亡数と死亡率および順位(0歳)

都道府県	死因総数			不慮の事故			交通事故			転倒・転落			不慮の溺死及び溺水			不慮の窒息			煙・火・火災への曝露		
	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位
全国	20,222	339.7		1,191	20.0		96	1.6		60	1.0		79	1.3		836	14.0		28	0.5	
北海道	711	304.0	8	56	23.9	36	4	1.7	24	1	0.4	19	5	2.1	37	32	13.7	28	11	4.7	47
青森県	272	421.1	43	12	18.6	24	0	0.0	1	0	0.0	1	3	4.6	46	8	12.4	23	0	0.0	1
岩手県	179	288.5	3	6	9.7	2	2	3.2	43	1	1.6	33	0	0.0	1	1	1.6	1	0	0.0	1
宮城県	329	297.0	6	16	14.4	11	1	0.9	13	0	0.0	1	2	1.8	30	8	7.2	8	2	1.8	40
秋田県	141	313.1	10	5	11.1	4	2	4.4	45	0	0.0	1	2	4.4	44	1	2.2	2	0	0.0	1
山形県	189	346.2	25	8	14.7	13	0	0.0	1	0	0.0	1	0	0.0	1	5	9.2	12	1	1.8	41
福島県	364	358.1	30	29	28.5	42	1	1.0	14	2	2.0	36	0	0.0	1	23	22.6	44	0	0.0	1
茨城県	451	319.6	13	29	20.6	31	4	2.8	39	2	1.4	29	2	1.4	26	16	11.3	19	0	0.0	1
栃木県	362	381.5	40	18	19.0	25	2	2.1	30	0	0.0	1	2	2.1	36	9	9.5	13	2	2.1	43
群馬県	330	339.4	21	20	20.6	32	3	3.1	42	2	2.1	39	2	2.1	35	13	13.4	27	0	0.0	1
埼玉県	1,144	344.7	24	45	13.6	9	5	1.5	19	1	0.3	18	2	0.6	15	34	10.2	16	0	0.0	1
千葉県	901	325.8	15	48	17.4	20	5	1.8	26	3	1.1	26	2	0.7	16	30	10.8	18	3	1.1	38
東京都	1,719	343.1	23	85	17.0	19	4	0.8	12	8	1.6	32	5	1.0	19	60	12.0	21	1	0.2	32
神奈川県	1,404	338.7	20	83	20.0	29	5	1.2	17	3	0.7	21	5	1.2	24	62	15.0	32	3	0.7	35
新潟県	384	350.9	26	25	22.8	33	3	2.7	37	0	0.0	1	1	0.9	17	18	16.4	34	0	0.0	1
富山県	192	377.6	38	15	29.5	44	2	3.9	44	1	2.0	35	1	2.0	33	11	21.6	43	0	0.0	1
石川県	216	376.7	37	7	12.2	5	1	1.7	25	2	3.5	46	0	0.0	1	4	7.0	7	0	0.0	1
福井県	168	418.1	42	6	14.9	14	1	2.5	36	1	2.5	42	0	0.0	1	4	10.0	15	0	0.0	1
山梨県	168	401.2	41	12	28.7	43	1	2.4	35	0	0.0	1	2	4.8	47	9	21.5	42	0	0.0	1
長野県	279	263.3	1	14	13.2	7	5	4.7	46	1	0.9	25	1	0.9	18	7	6.6	6	0	0.0	1
岐阜県	338	333.4	16	20	19.7	27	2	2.0	28	2	2.0	37	2	2.0	34	14	13.8	29	0	0.0	1
静岡県	516	288.3	2	34	19.0	26	3	1.7	23	2	1.1	27	2	1.1	20	23	12.9	26	1	0.6	34
愛知県	1,197	320.3	14	74	19.8	28	8	2.1	32	3	0.8	23	5	1.3	25	48	12.8	25	3	0.8	36
三重県	327	368.9	33	12	13.5	8	2	2.3	33	2	2.3	40	1	1.1	21	7	7.9	9	0	0.0	1
滋賀県	264	374.8	35	11	15.6	16	2	2.8	40	1	1.4	30	0	0.0	1	7	9.9	14	1	1.4	39
京都府	403	335.9	18	15	12.5	6	2	1.7	22	0	0.0	1	2	1.7	28	10	8.3	10	1	0.8	37
大阪府	1,400	317.6	11	125	28.4	41	1	0.2	11	3	0.7	20	2	0.5	14	114	25.9	46	0	0.0	1
兵庫県	918	337.2	19	67	24.6	37	4	1.5	18	2	0.7	22	6	2.2	39	49	18.0	35	0	0.0	1
奈良県	197	296.9	5	11	16.6	17	1	1.5	20	0	0.0	1	2	3.0	42	7	10.6	17	0	0.0	1
和歌山県	163	340.8	22	11	23.0	34	0	0.0	1	0	0.0	1	0	0.0	1	10	20.9	40	0	0.0	1
鳥取県	87	308.2	9	4	14.2	10	0	0.0	1	0	0.0	1	0	0.0	1	4	14.2	31	0	0.0	1
島根県	115	352.7	28	6	18.4	23	0	0.0	1	1	3.1	45	0	0.0	1	5	15.3	33	0	0.0	1
岡山県	336	352.6	27	22	23.1	35	0	0.0	1	0	0.0	1	0	0.0	1	20	21.0	41	0	0.0	1
広島県	412	300.9	7	35	25.6	39	4	2.9	41	2	1.5	31	3	2.2	38	25	18.3	36	0	0.0	1
山口県	248	378.0	39	11	16.8	18	1	1.5	21	0	0.0	1	2	3.0	43	8	12.2	22	0	0.0	1
徳島県	163	451.3	46	9	24.9	38	1	2.8	38	0	0.0	1	0	0.0	1	7	19.4	37	0	0.0	1
香川県	143	291.6	4	18	36.7	46	1	2.0	29	1	2.0	38	0	0.0	1	13	26.5	47	0	0.0	1
愛媛県	233	352.8	29	23	34.8	45	0	0.0	1	2	3.0	44	3	4.5	45	16	24.2	45	0	0.0	1
高知県	149	437.5	45	9	26.4	40	0	0.0	1	1	2.9	43	1	2.9	41	7	20.6	38	0	0.0	1
福岡県	849	359.1	31	48	20.3	30	5	2.1	31	2	0.8	24	4	1.7	29	33	14.0	30	1	0.4	33
佐賀県	163	372.8	34	8	18.3	21	1	2.3	34	1	2.3	41	0	0.0	1	5	11.4	20	1	2.3	44
長崎県	257	364.6	32	6	8.5	1	0	0.0	1	0	0.0	1	1	1.4	27	3	4.3	3	0	0.0	1
熊本県	289	334.8	17	13	15.1	15	1	1.2	15	0	0.0	1	1	1.2	22	4	4.6	4	0	0.0	1
大分県	174	319.0	12	10	18.3	22	0	0.0	1	1	1.8	34	1	1.8	32	7	12.8	24	1	1.8	42
宮崎県	235	425.8	44	8	14.5	12	1	1.8	27	0	0.0	1	1	1.8	31	5	9.1	11	0	0.0	1
鹿児島県	306	376.1	36	33	40.6	47	4	4.9	47	4	4.9	47	2	2.5	40	17	20.9	39	3	3.7	46
沖縄県	399	475.8	47	9	10.7	3	1	1.2	16	1	1.2	28	1	1.2	23	4	4.8	5	2	2.4	45
政令指定都総計	4,042	321.4		229	18.2		13	1.0		16	1.3		13	1.0		165	13.1		7	0.6	
東京	1,131	346.8	11	47	14.4	6	2	0.6	5	7	2.1	11	3	0.9	8	30	9.2	5	1	0.3	9
札幌	196	255.7	1	17	22.2	10	1	1.3	8	0	0.0	1	1	1.3	9	13	17.0	10	0	0.0	1
仙台	132	258.0	2	5	9.8	3	1	2.0	11	0	0.0	1	0	0.0	1	3	5.9	3	0	0.0	1
千葉	137	322.2	7	5	11.8	4	0	0.0	1	1	2.4	13	0	0.0	1	2	4.7	2	2	4.7	13
横浜	480	285.7	4	38	22.6	11	2	1.2	7	2	1.2	7	1	0.6	7	29	17.3	11	2	1.2	10
川崎	233	344.1	9	12	17.7	8	1	1.5	9	1	1.5	8	0	0.0	1	8	11.8	8	1	1.5	11
名古屋	314	302.5	5	16	15.4	7	1	1.0	6	2	1.9	10	2	1.9	11	10	9.6	7	0	0.0	1
京都	215	330.7	8	6	9.2	2	0	0.0	1	0	0.0	1	0	0.0	1	6	9.2	6	0	0.0	1
大阪	448	371.2	13	43	35.6	13	0	0.0	1	1	0.8	6	2	1.7	10	37	30.7	13	0	0.0	1
神戸	201	305.5	6	8	12.2	5	1	1.5	10	0	0.0	1	2	3.0	12	5	7.6	4	0	0.0	1
広島	159	271.0	3	11	18.7	9	2	3.4	13	1	1.7	9	0	0.0	1	7	11.9	9	0	0.0	1
北九州	158	344.5	10	3	6.5	1	0	0.0	1	1	2.2	12	0	0.0	1	2	4.4	1	0	0.0	1
福岡	238	362.4	12	18	27.4	12	2	3.0	12	0	0.0	1	2	3.0	13	13	19.8	12	1	1.5	12

表3. 都道府県別の死亡数と死亡率および順位 (1-4歳)

都道府県	死因総数			不慮の事故			交通事故			転倒・転落			不慮の溺死及び溺水			不慮の窒息			煙・火・火災への曝露		
	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位
全国	7,741	32.7		1,853	7.8		645	2.7		174	0.7		504	2.1		263	1.1		165	0.7	
北海道	351	36.5	41	102	10.6	40	46	4.8	43	7	0.7	26	20	2.1	15	18	1.9	37	7	0.7	26
青森県	96	35.7	37	20	7.4	13	11	4.1	40	1	0.4	10	6	2.2	19	1	0.4	3	1	0.4	13
岩手県	92	36.4	40	15	5.9	7	6	2.4	16	2	0.8	32	5	2.0	12	1	0.4	4	0	0.0	1
宮城県	131	30.1	10	42	9.6	32	16	3.7	35	0	0.0	1	14	3.2	32	3	0.7	9	4	0.9	36
秋田県	59	31.0	14	19	10.0	35	7	3.7	36	0	0.0	1	7	3.7	41	4	2.1	39	0	0.0	1
山形県	81	36.1	39	20	8.9	25	8	3.6	34	0	0.0	1	7	3.1	31	1	0.4	5	2	0.9	34
福島県	179	43.3	45	52	12.6	45	22	5.3	45	3	0.7	25	15	3.6	39	4	1.0	19	5	1.2	39
茨城県	227	39.8	42	74	13.0	46	28	4.9	44	6	1.1	38	22	3.9	42	11	1.9	38	5	0.9	32
栃木県	156	41.1	43	37	9.7	34	14	3.7	37	3	0.8	31	8	2.1	16	5	1.3	32	3	0.8	39
群馬県	128	32.5	23	36	9.1	28	7	1.8	10	2	0.5	18	14	3.6	36	3	0.8	12	5	1.3	41
埼玉県	428	31.9	19	73	5.4	6	29	2.2	13	6	0.4	15	14	1.0	5	8	0.6	8	9	0.7	32
千葉県	354	32.4	22	89	8.1	18	31	2.8	23	13	1.2	44	21	1.9	11	14	1.3	31	9	0.8	30
東京都	568	29.9	7	82	4.3	5	28	1.5	7	20	1.1	39	12	0.6	2	15	0.8	13	5	0.3	12
神奈川県	456	28.3	4	65	4.0	2	23	1.4	6	6	0.4	11	16	1.0	4	8	0.5	7	7	0.4	14
新潟県	152	33.9	31	40	8.9	24	16	3.6	33	2	0.4	14	12	2.7	22	5	1.1	24	4	0.9	33
富山県	67	33.2	27	8	4.0	1	2	1.0	3	1	0.5	17	2	1.0	3	2	1.0	20	1	0.5	16
石川県	63	27.8	2	16	7.1	10	4	1.8	9	1	0.4	13	8	3.5	35	2	0.9	16	0	0.0	1
福井県	52	31.6	17	14	8.5	22	5	3.0	28	0	0.0	1	5	3.0	30	2	1.2	29	2	1.2	40
山梨県	51	29.3	5	11	6.3	8	2	1.1	5	0	0.0	1	4	2.3	21	5	2.9	47	0	0.0	1
長野県	133	31.0	15	36	8.4	19	13	3.0	27	3	0.7	22	12	2.8	23	2	0.5	6	3	0.7	24
岐阜県	132	32.1	21	37	9.0	26	14	3.4	31	4	1.0	37	12	2.9	28	5	1.2	30	1	0.2	11
静岡県	232	32.1	20	61	8.4	21	16	2.2	14	10	1.4	46	15	2.1	14	13	1.8	35	4	0.6	18
愛知県	448	30.6	12	96	6.6	9	35	2.4	17	10	0.7	21	16	1.1	6	17	1.2	27	15	1.0	37
三重県	129	36.1	38	30	8.4	20	14	3.9	39	1	0.3	7	5	1.4	8	4	1.1	26	5	1.4	43
滋賀県	87	30.7	13	30	10.6	39	12	4.2	42	2	0.7	24	8	2.8	25	6	2.1	40	2	0.7	25
京都府	143	30.3	11	36	7.6	14	10	2.1	12	5	1.1	40	7	1.5	10	10	2.1	41	3	0.6	19
大阪府	536	31.3	16	122	7.1	11	43	2.5	18	20	1.2	43	24	1.4	9	12	0.7	10	11	0.6	21
兵庫県	323	30.0	9	86	8.0	15	31	2.9	24	8	0.7	28	22	2.0	13	13	1.2	28	5	0.5	15
奈良県	71	26.4	1	11	4.1	3	3	1.1	4	1	0.4	9	3	1.1	7	3	1.1	25	0	0.0	1
和歌山県	62	31.6	18	19	9.7	33	4	2.0	11	3	1.5	47	7	3.6	37	5	2.6	44	0	0.0	1
鳥取県	31	27.9	3	9	8.1	16	1	0.9	2	1	0.9	36	4	3.6	38	3	2.7	45	0	0.0	1
島根県	56	42.1	44	16	12.0	43	9	6.8	47	1	0.8	30	3	2.3	20	0	0.0	1	1	0.8	28
岡山県	131	35.0	35	41	10.9	42	12	3.2	30	3	0.8	33	13	3.5	34	5	1.3	33	6	1.6	45
広島県	181	33.0	24	50	9.1	27	16	2.9	25	1	0.2	6	18	3.3	33	6	1.1	23	7	1.3	42
山口県	88	33.3	28	27	10.2	37	10	3.8	38	1	0.4	12	8	3.0	29	6	2.3	43	0	0.0	1
徳島県	47	33.2	26	15	10.6	38	6	4.2	41	1	0.7	23	4	2.8	24	4	2.8	46	0	0.0	1
香川県	65	34.5	33	18	9.6	31	5	2.7	20	1	0.5	19	9	4.8	46	2	1.1	22	1	0.5	17
愛媛県	89	33.1	25	25	9.3	30	7	2.6	19	3	1.1	41	6	2.2	18	5	1.9	36	3	1.1	38
高知県	41	29.9	6	10	7.3	12	4	2.9	26	1	0.7	27	3	2.2	17	1	0.7	11	1	0.7	27
福岡県	315	33.7	29	76	8.1	17	22	2.4	15	7	0.7	29	27	2.9	27	9	1.0	18	6	0.6	20
佐賀県	76	43.4	46	25	14.3	47	10	5.7	46	2	1.1	42	7	4.0	43	3	1.7	34	3	1.7	46
長崎県	102	35.2	36	29	10.0	36	8	2.8	22	1	0.3	8	13	4.5	44	3	1.0	21	2	0.7	23
熊本県	121	34.8	34	32	9.2	29	12	3.4	32	3	0.9	34	10	2.9	26	3	0.9	14	3	0.9	31
大分県	75	34.0	32	24	10.9	41	7	3.2	29	1	0.5	16	8	3.6	40	2	0.9	17	7	3.2	47
宮崎県	68	30.0	8	20	8.8	23	4	1.8	8	2	0.9	35	11	4.8	47	2	0.9	15	0	0.0	1
鹿児島県	154	47.0	47	41	12.5	44	9	2.7	21	2	0.6	20	15	4.6	45	7	2.1	42	5	1.5	44
沖縄県	112	33.8	30	14	4.2	4	2	0.6	1	4	1.2	45	2	0.6	1	1	0.3	2	3	0.9	35
政令指定都総計	1,439	30.0		265	5.5		84	1.8		44	0.9		48	1.0		39	0.8		30	0.6	
東京	361	29.9	7	56	4.6	4	15	1.2	3	14	1.2	8	9	0.7	5	13	1.1	11	4	0.3	5
札幌	102	33.3	10	21	6.8	8	8	2.6	11	4	1.3	10	1	0.3	4	3	1.0	10	4	1.3	12
仙台	51	26.6	2	17	8.9	13	8	4.2	13	0	0.0	1	3	1.6	10	1	0.5	6	2	1.0	8
千葉	45	26.7	3	14	8.3	12	5	3.0	12	2	1.2	9	0	0.0	1	4	2.4	12	2	1.2	10
横浜	157	24.2	1	20	3.1	1	4	0.6	1	0	0.0	1	7	1.1	6	1	0.2	1	5	0.8	7
川崎	68	27.6	4	11	4.5	3	3	1.2	2	2	0.8	7	3	1.2	9	1	0.4	4	1	0.4	6
名古屋	117	28.8	6	15	3.7	2	7	1.7	4	2	0.5	4	1	0.2	3	3	0.7	9	1	0.2	4
京都	79	31.7	8	19	7.6	9	5	2.0	7	4	1.6	12	3	1.2	8	6	2.4	13	0	0.0	1
大阪	154	34.2	11	35	7.8	10	10	2.2	10	8	1.8	13	5	1.1	7	3	0.7	8	5	1.1	9
神戸	74	28.7	5	12	4.7	5	5	1.9	5	4	1.6	11	0	0.0	1	1	0.4	2	0	0.0	1
広島	73	31.8	9	19	8.3	11	5	2.2	8	1	0.4	3	7	3.0	13	1	0.4	5	3	1.3	13
北九州	71	39.3	13	10	5.5	6	4	2.2	9	1	0.6	5	4	2.2	12	1	0.6	7	0	0.0	1
福岡	87	34.6	12	16	6.4	7	5	2.0	6	2	0.8	6	5	2.0	11	1	0.4	3	3	1.2	11

表4. 都道府県別の死亡数と死亡率および順位 (5-9歳)

都道府県	死因総数			不慮の事故			交通事故			転倒・転落			不慮の溺死及び溺水			不慮の窒息			煙・火・火災への曝露		
	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位	総死亡数	死亡率	順位
全国	4,061	13.5		1,432	4.8		745	2.5		68	0.2		362	1.2		81	0.3		112	0.4	
北海道	218	16.7	40	81	6.2	35	52	4.0	44	2	0.2	16	8	0.6	11	6	0.5	36	11	0.8	41
青森県	50	13.5	20	18	4.8	24	12	3.2	34	1	0.3	26	2	0.5	6	0	0.0	1	1	0.3	23
岩手県	49	13.9	26	18	5.1	27	12	3.4	37	1	0.3	28	2	0.6	9	1	0.3	27	1	0.3	24
宮城県	91	15.9	36	35	6.1	34	16	2.8	28	2	0.3	34	9	1.6	28	2	0.3	30	5	0.9	63
秋田県	38	14.1	27	13	4.8	20	6	2.2	15	0	0.0	1	5	1.9	33	0	0.0	1	1	0.4	28
山形県	37	12.2	9	18	5.9	33	8	2.6	24	2	0.7	45	5	1.6	29	0	0.0	1	2	0.7	37
福島県	68	12.2	10	27	4.8	21	18	3.2	33	0	0.0	1	6	1.1	19	0	0.0	1	3	0.5	34
茨城県	110	14.7	32	39	5.2	28	28	3.8	42	0	0.0	1	7	0.9	16	1	0.1	20	1	0.1	8
栃木県	84	16.9	42	24	4.8	23	15	3.0	31	1	0.2	21	3	0.6	10	0	0.0	1	4	0.8	40
群馬県	57	11.3	5	18	3.6	5	11	2.2	14	0	0.0	1	2	0.4	3	3	0.6	40	2	0.4	32
埼玉県	223	13.2	17	82	4.8	22	43	2.5	22	7	0.4	37	11	0.6	12	7	0.4	31	12	0.7	38
千葉県	145	10.6	3	56	4.1	10	39	2.8	30	3	0.2	23	12	0.9	15	1	0.1	18	2	0.1	9
東京都	270	11.7	7	85	3.7	6	53	2.3	16	7	0.3	31	19	0.8	14	2	0.1	19	3	0.1	17
神奈川県	222	11.5	6	56	2.9	2	32	1.7	6	3	0.2	17	6	0.3	2	3	0.2	22	6	0.3	25
新潟県	80	13.4	19	27	4.5	14	17	2.8	29	0	0.0	1	8	1.3	24	1	0.2	23	1	0.2	20
富山県	38	14.9	33	18	7.1	42	9	3.5	39	0	0.0	1	5	2.0	36	0	0.0	1	3	1.2	45
石川県	35	12.2	12	13	4.6	15	7	2.4	20	1	0.3	35	4	1.4	26	0	0.0	1	1	0.3	26
福井県	37	17.4	46	8	3.8	7	4	1.9	8	0	0.0	1	1	0.5	4	0	0.0	1	2	0.9	44
山梨県	28	12.2	11	16	7.0	41	6	2.6	23	0	0.0	1	8	3.5	46	1	0.4	35	0	0.0	1
長野県	80	14.6	31	25	4.6	16	13	2.4	18	2	0.4	36	3	0.5	8	4	0.7	42	2	0.4	27
岐阜県	84	16.0	37	31	5.9	32	14	2.7	26	1	0.2	19	13	2.5	40	0	0.0	1	2	0.4	30
静岡県	120	13.0	15	44	4.8	19	23	2.5	21	0	0.0	1	10	1.1	20	2	0.2	25	7	0.8	29
愛知県	196	11.2	4	60	3.4	4	30	1.7	7	3	0.2	18	18	1.0	17	3	0.2	24	2	0.1	16
三重県	65	14.1	28	34	7.4	43	19	4.1	45	0	0.0	1	11	2.4	39	3	0.7	41	0	0.0	1
滋賀県	51	14.4	30	24	6.8	39	13	3.7	41	2	0.6	43	4	1.1	22	2	0.6	38	2	0.6	35
京都府	92	15.8	35	25	4.3	13	12	2.1	12	2	0.3	33	8	1.4	25	2	0.3	28	1	0.2	21
大阪府	244	12.1	8	66	3.3	3	27	1.3	2	4	0.2	20	21	1.0	18	7	0.3	29	4	0.2	22
兵庫県	186	13.8	25	68	5.1	26	27	2.0	11	3	0.2	24	24	1.8	31	2	0.1	21	5	0.4	29
奈良県	48	13.7	23	15	3.4	12	7	2.0	9	1	0.3	29	4	1.1	23	2	0.6	39	0	0.0	1
和歌山県	35	13.5	21	12	4.6	18	4	1.5	3	0	0.0	1	5	1.9	35	2	0.8	43	1	0.4	31
鳥取県	26	17.0	45	13	8.5	46	7	4.6	47	0	0.0	1	4	2.6	45	2	1.3	47	0	0.0	1
島根県	24	13.1	16	7	3.8	8	5	2.7	27	1	0.5	42	1	0.5	7	0	0.0	1	0	0.0	1
岡山県	79	16.8	41	38	8.1	45	16	3.4	38	0	0.0	1	9	1.9	34	5	1.1	45	6	1.3	47
広島県	112	16.0	38	40	5.7	31	11	1.6	4	3	0.4	39	10	1.4	27	7	1.0	44	6	0.9	42
山口県	44	12.7	14	19	5.5	29	8	2.3	17	1	0.3	30	9	2.6	42	0	0.0	1	0	0.0	1
徳島県	27	14.2	29	12	6.3	36	5	2.6	25	1	0.5	41	4	2.1	38	1	0.5	37	0	0.0	1
香川県	22	9.3	1	5	2.1	1	2	0.8	1	0	0.0	1	0	0.0	1	1	0.4	32	1	0.4	33
愛媛県	44	12.3	13	18	5.0	25	12	3.4	36	1	0.3	27	4	1.1	21	0	0.0	1	0	0.0	1
高知県	35	19.1	47	18	9.8	47	6	3.3	35	2	1.1	47	8	4.4	47	2	1.1	46	0	0.0	1
福岡県	194	16.1	39	67	5.5	30	26	2.2	13	7	0.6	44	24	2.0	37	3	0.2	26	7	0.6	36
佐賀県	35	15.0	34	18	7.7	44	10	4.3	46	0	0.0	1	6	2.6	41	0	0.0	1	0	0.0	1
長崎県	53	13.3	18	16	4.0	9	8	2.0	10	1	0.3	25	2	0.5	5	0	0.0	1	5	1.3	46
熊本県	65	13.8	24	30	6.4	37	17	3.6	40	2	0.4	38	8	1.7	30	2	0.4	33	0	0.0	1
大分県	29	9.9	2	12	4.1	11	7	2.4	19	2	0.7	46	2	0.7	13	0	0.0	1	0	0.0	1
宮崎県	52	17.0	43	21	6.8	40	12	3.9	43	1	0.3	32	8	2.6	43	0	0.0	1	0	0.0	1
鹿児島県	78	17.0	44	31	6.7	38	14	3.0	32	1	0.2	22	12	2.6	44	2	0.4	34	0	0.0	1
沖縄県	59	13.5	22	20	4.6	17	7	1.6	5	2	0.5	40	8	1.8	32	0	0.0	1	0	0.0	1
政令指定都府県	687	11.8		188	3.2		97	1.7		16	0.3		40	0.7		10	0.2		18	0.3	
東京	159	10.9	4	50	3.4	8	34	2.3	9	5	0.3	8	8	0.5	4	1	0.1	7	2	0.1	6
札幌	53	13.1	8	16	4.0	11	10	2.5	11	0	0.0	1	2	0.5	3	1	0.2	8	2	0.5	11
仙台	30	12.7	7	8	3.4	7	2	0.8	2	2	0.8	12	1	0.4	2	0	0.0	1	3	1.3	12
千葉	14	7.0	1	7	3.5	9	5	2.5	12	1	0.5	11	2	1.0	9	0	0.0	1	0	0.0	1
横浜	81	10.5	3	16	2.1	2	9	1.2	6	1	0.1	6	0	0.0	1	0	0.0	1	3	0.4	9
川崎	37	13.5	10	10	3.6	10	5	1.8	8	0	0.0	1	3	1.1	11	1	0.4	10	0	0.0	1
名古屋	56	11.3	5	13	2.6	4	5	1.0	5	0	0.0	1	5	1.0	10	0	0.0	1	1	0.2	7
京都	45	15.0	12	9	3.0	5	7	2.3	10	0	0.0	1	2	0.7	6	0	0.0	1	0	0.0	1
大阪	60	11.5	6	12	2.3	3	5	1.0	3	2	0.4	10	3	0.6	5	2	0.4	11	0	0.0	1
神戸	31	9.3	2	6	1.8	1	2	0.6	1	1	0.3	7	3	0.9	8	0	0.0	1	0	0.0	1
広島	49	17.4	13	18	6.4	13	4	1.4	7	1	0.4	9	4	1.4	12	3	1.1	13	5	1.8	13
北九州	30	13.1	9	13	5.7	12	6	2.6	13	3	1.3	13	2	0.9	7	1	0.4	12	1	0.4	10
福岡	42	13.6	11	10	3.2	6	3	1.0	4	0	0.0	1	5	1.6	13	1	0.3	9	1	0.3	8